

読書について

中学生の読書冊数 1ヶ月平均4.7冊

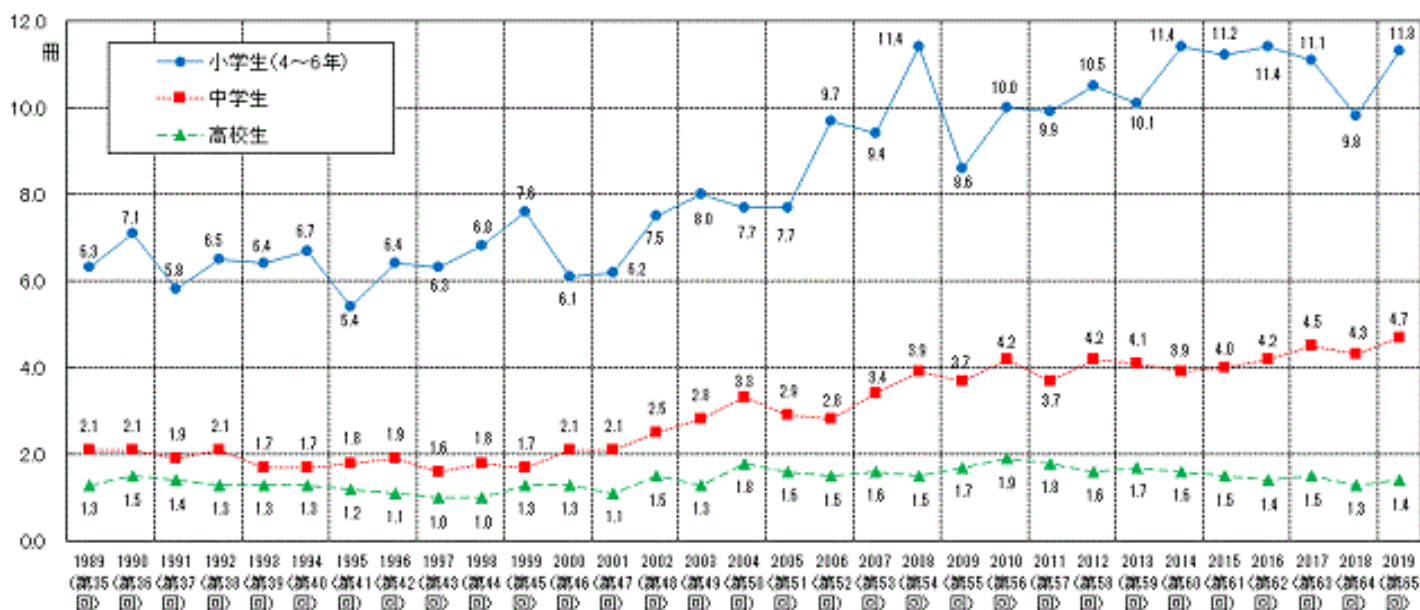
【2019年 第65回学校読書調査（全国学校図書館協議会）から】

思ったより多いと感じた方もいらっしゃるかも知れません。皆様のお子さんは1ヶ月に約5冊の本を読んでいるのでしょうか？

この調査は、全国図書館協議会が毎年5月に小中高校生を対象に調査をしているものです。なぜ、調査月を5月にしているか詳細は分かりませんが、5月はGWもあり比較的読書をする時間がとれるからかも知れません。

下の過去31回分の調査結果のグラフを見ると、高校生を除き小中学生の1ヶ月の平均読書冊数は、やや増加傾向と捉えることができます。国をあげて、子どもたちの読書活動を推進してきた結果だと思われます。

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



読書の意義や効果

読書の意義や効果は様々ですが、「子どもの読書活動の推進に関する法律」には、子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことのできないもの（第2条）と記されています。

読書好きは全ての教科で正答数が最も高い

効果についても、様々な研究がなされていますが、今回は分かりやすい調査結果を1つだけ紹介しておきます。

毎年、全国の全ての小学6年生と中学校3年生を対象に行っている、「全国学力・学習状況調査」の結果について、平成21年度に静岡大学が文部科学省の委託を受けて行った、読書活動と学力・学習状況の関係に関する調査研究によると、読書好きな児童生徒は、どのような学力層（学力層の高低にかかわらず）、全ての教科で正答数が高いという結果が出たそうです。

ただ、注意すべきは読書時間が長ければ正答数が高いかと言え、そうではなく、あくまでも読書好きと正答数の間に高い相関があったということです。

もうすぐ夏休み、良書に親しんでみては？

～約1万5千冊の本が子どもたちを待っています～

今年の夏休みは、19日間と短くなってしまいましたが、それでも約3週間の期間があります。学校の図書館にも約1万5千冊の蔵書があります。夏休み期間中は1人に6冊まで貸し出せるようにしています。ぜひ、大勢の皆さんに借りてほしいものです。

保護者の皆さんがこれまでに読んだ本をお子さんに紹介したりするなど、ご家族で読書に親しむ夏休みにするのもいかがでしょうか？

3年生は何かと受験勉強で忙しいでしょうが、1、2年生は時間の余裕のある今のうちに読書好きを目指してみるのも良いかと思います。